

地域の集いの場を整備 温泉町「みんなの家」起工式

豪雨災害で被災した公民館に代わる集会所「みんなの家」の起工式が、10月30日に温泉町で行われました。被災地区の創造的復興に向けた地域づくりの拠点として活用できるよう日本財団が支援し、一般財団法人熊本県建築住宅センターが整備するもの。住民の意見を反映できるように今年1月から意見交換などを行ってきました。

温泉町の祝町内会長は、「先の見えない復興を手探りで続けてきた。今日が復興の出発点。しっかりと使いこなしたい」と話しました。



令和5年3月の完成を予定している

百歳の誕生日を盛大に祝福 58654号機百歳おめでとうセレモニー

SL人吉をけん引する蒸気機関車「58654号機」が百歳を迎えることを記念し、11月18日にJR八代駅で「58654号機百歳おめでとうセレモニー」が開催されました。同機関車は2度の引退を経て、平成21年にSL人吉として復活。令和2年までJR肥薩線で行っていました。

セレモニーでは熊本駅を出発し八代駅に到着するSL人吉を出迎えた後、バスツアーやSLのかまへの投炭で祝い。鉄道愛好家をはじめ多くの人々が駆け付けました。



特別運行したSL人吉にカメラを向ける来場者

妖怪を題材にまちおこし 妖怪まつり

鍛冶屋町で初の試みとなる「妖怪まつり」が、11月19日に同町通り一帯で開催されました。人吉球磨に残る妖怪文化を生かし、地域活性化につなげようと鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会と熊本大学、熊本県立大学の学生が企画。

妖怪に扮装した人や着物姿の大学生、和傘のライトアップやちょうちんの演出で、会場は妖怪の世界に迷い込んだような雰囲気。来場者は妖怪人力車で夜のまちを散策したり、妖怪談義に耳を傾けたりと、思い思いの時間を楽しんでいました。



鍛冶屋町通りをちょうちん行列で練り歩く参加者たち

由縁ある俳優たちが復興を応援 劇場版『永遠ノ矢トワノアイ』上映会

俳優・宇梶剛士さんの劇団が上演した舞台を映画化した『永遠ノ矢トワノアイ』の上映会が、10月29日にカルチャーパレスで開催されました。

同作品は、宇梶さんが自身のルーツであるアイヌ民族について書いたもので、宇梶さんが織月酒造株式会社テレビコマースヤルに出演していることや、同作品に出演している俳優・杉本凌士さんが本市出身であることから、復興支援として上映会が実現。上映後には、宇梶さんと松岡市長とのトークショーが開催されました。



同作品や人吉への思いを語る宇梶さん

市民の人権を守り続けて 人権擁護委員法務大臣感謝状伝達式

地域住民から人権相談を受けて問題解決を手伝ったり、子どもたちへの人権教室を行ったりしている人権擁護委員。同委員を長年務め、地域住民の人権保護に貢献したとして、竹下敏さん（南町）と霧崎順子さん（西間上町）に法務大臣から感謝状が贈られました。11月18日、市役所で伝達式を行い、熊本地方法務局の福岡克弘人吉支局長から感謝状が手渡されました。

竹下さんは「人権について改めて考えることがあり、多くの学びがありました」と活動を振り返りました。



竹下さんは6年6カ月、霧崎さんは6年委員を務めた

回遊性のあるまちを目指して かわまちづくり現地説明会

市は、令和2年3月に策定した球磨川・人吉地区かわまちづくり計画を豪雨災害からの復旧・復興を踏まえた内容に変更するため、球磨川・人吉地区かわまちづくり協議会を再開。委員を対象に、10月24日、中川原公園で説明会を行いました。同協議会は球磨川の水辺を活用し、地域の活性化を目指して令和元年に立ち上がったもの。

今後は、球磨川を中心に人吉城跡、青井阿蘇神社周辺、中心市街地を歩き回れるような回遊性のあるまちづくりを進めていきます。



9月から整備が始まった中川原公園で開催

願い込めた光が夜空埋め尽くす 第2回人吉スカイランタンフェスティバル

令和2年7月豪雨からの復興を願うイベント「人吉スカイランタンフェスティバル」が、11月12日にふるさと歴史の広場で開催されました。

参加者はランタンを受け取ると、復興への思いやそれぞれの願いを書き込みました。小雨が降るあいにくの天気でしたが、カウントダウンとともに約700個のランタンが放たれると、夜空は幻想的な明かりでいっぱいになりました。宮崎県都城市から参加した家族は、「ランタンには復興へのメッセージを込めました」と話していました。



鎮魂の祈りと復興の願いを込め、昨年に引き続き開催

未来の人吉市を作るのは私たち 高校生提言発表会

人吉球磨の高校生がまちの復興について提言する発表会が、11月19日にカルチャーパレスで行われました。復旧・復興へと歩みが進む中、本市が掲げる復興計画に対し、青年の視点を取り込む必要があると考えた一般社団法人ひとよし球磨青年会議所が開催したものです。

生徒たちは「子育て支援を充実させて住み続けたいまちに」「共助につなげるためのボランティアサイトの開設」など、まちをより良くするための解決策を松岡市長はじめ市の関係者に提言しました。



球磨中央高、南陵高、人吉高の代表生徒が学校ごとに発表